



春日小だより

令和6年9月30日
練馬区立春日小学校
校長 後藤 京子
学校通信 10月号

幸せな時

校長 後藤 京子

朝晩に吹く風が心地よい季節となりました。保護者の皆様におかれましては、日頃から本校の教育活動にご理解、ご協力をいただき、ありがとうございます。

令和6年度が始まって半年が過ぎ、前期の活動が終わります。後期は今年度のまとめの時期でもあり、次年度への準備の時期でもあります。現在の子どもたちの様子から、春日小学校のウェルビーイングについて考えました。

ウェルビーイングとは、まず「健康」という言葉が思い浮かびます。でも、「肉体的」「身体的」なことだけではなく、心の在り方や、社会の在り方という意味合いもあります。教育界では、「身体的・精神的によい状態」であり、短期的な幸福だけでなく、生きがいや人生の意義など、将来にわたる持続的な幸福を含むもの、さらに、個人のみならず、個人を取り巻く場や地域、社会が持続的によい状態であることを含む包括的な概念だそうです。本校の子どもたち何人かに「幸せなとき」について話をしてもらおうと、「好きな YouTuber の動画を見ているとき」や「本を読んでいるとき」のように一人で楽しんでいる子もいれば「みんなで遊んだり、勉強したりしているとき」「家族で出かけるとき」「友達と遊ぶとき」「毎日食べられて、家族や友達とささいな生活の中で挨拶をし合っているとき」のように、家族や友達という言葉が、あちらからもこちらからも聞かれ、自分一人だけでなく、まわりの人とつながることで幸福感が感じられているのだとわかりました。

先日、本校で研究会がありました。6年生が総合的な学習の時間で学んだSDGsの考えを生かして図工の時間に「夢の新製品」として作る活動です。「『5. ジェンダー平等を実現しよう』人生相談機」「『10. 人の不平等をなくそう』手話まるわかり装置」など、子どもたちは様々な材料を使いながら、作っていきます。楽しそうに取り組んでいてさぞかしあつという間に完成するかと思いきや、そうではありません。そんな時に、友達からデザイン、材料の組み合わせ方や用具、色など、アドバイスをもらう時間がありました。その時間があることで、先が見えてきた子や工夫の幅が広がった子がいます。学習の中には一人で活動する場面ももちろんありますが、「協働性」や「多様なつながり」によって自己肯定感が高まり、自己実現が図られます。また、安全、安心な環境を設定することで、子どもたちは多くの体験を重ね、大きな成長が期待されます。

2学期は、5年生が初めての移動教室を経験します。また、久しぶりの学芸会も行われます。「校長先生、学芸会のオーデションで〇〇の役になったよ」とニコニコした笑顔で声をかけてくれた子がいます。普段その子からは話しかけられることが少ないのですが、学芸会を心から楽しみにしているのでしょう。そして、その子はきっと、小学校最後の学芸会に魂を込めて演じてくれると思います。

一人一人の子どもが自分自身の確かな成長を実感できる学期となるように、私たち春日小学校の教職員全員でお子様を支え、ウェルビーイングを実現し、実感できるよう努力してまいります。2学期も皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。